



2019年**3**月期
決算説明会

2019年5月24日(金)

レオン自動機株式会社

(6272)

～ 本日は説明する概要 ～

1	2018年度 連結決算概況	…	P 3
	↓		
2	2019年度 連結業績予想	…	P 16
	↓		
3	中期経営計画 1年目進捗 (2018年度～2022年度)	…	P 25

1 2018年度 連結決算概況

～ 連結損益計算書サマリー ～

(百万円)	通期実績 ※1 2017年度	予想 ※2 2018年度 (2018年5月9日)	通期実績 ※3 2018年度	前期との増減 (%)
売上高	27,912	28,600	28,432	1.9 %
営業利益	3,596	3,480	3,332	▲7.4 %
経常利益	3,710	3,490	3,506	▲5.5 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,689	2,500	2,472	▲8.1 %
ROE	12.60 %	—	10.70%	—
EPS	100.45 円	93.36円	92.31円	—
配当	30.0 円	28.0円	28.0円	—

※1 期中平均為替レート : 1米ドル = 110.85 円

※2 想定為替レート : 1米ドル = 105.00 円

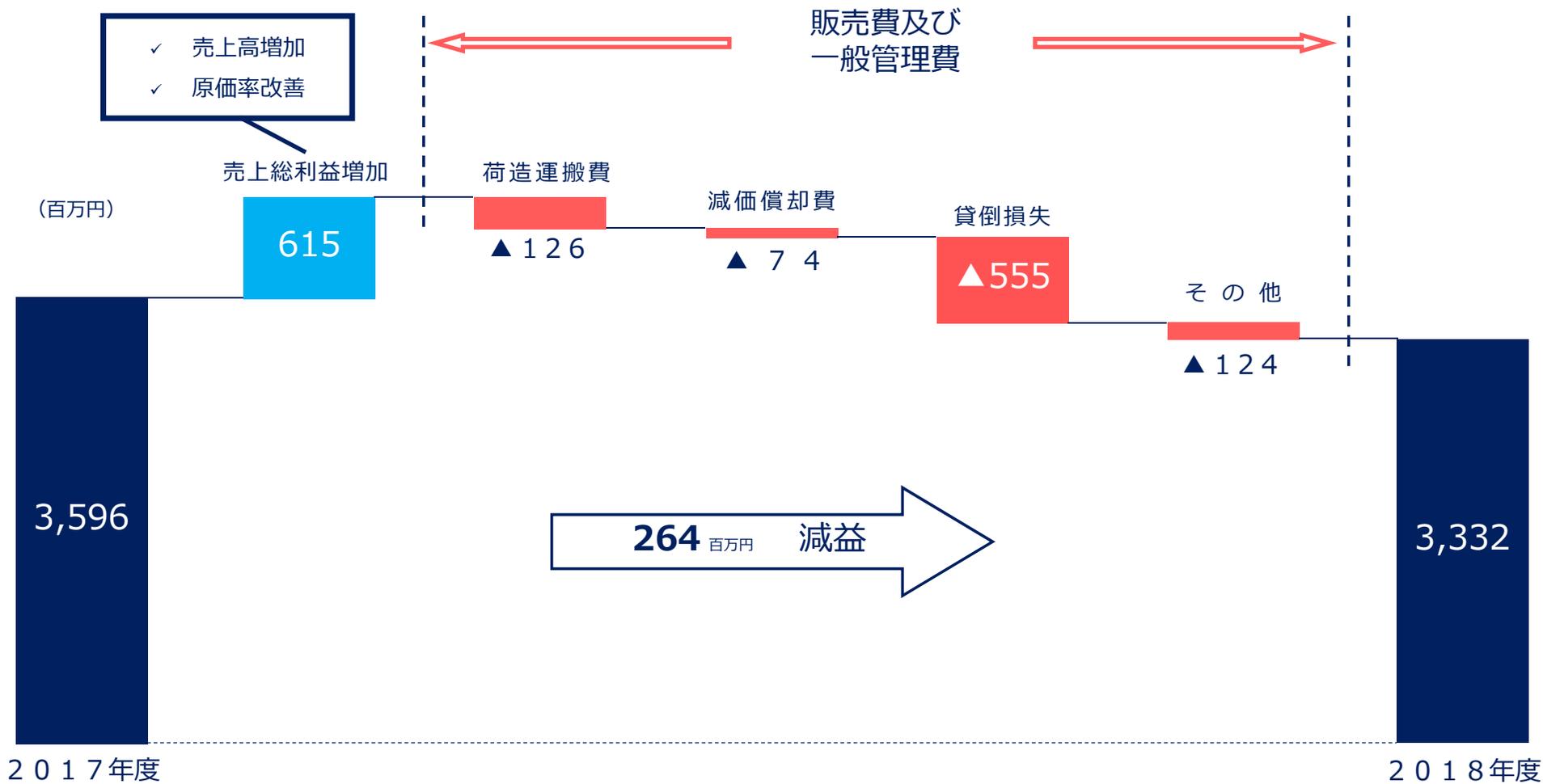
※3 期中平均為替レート : 1米ドル = 110.91 円 (※1比0.1% 円安)

1ユーロ = 129.70 円

1ユーロ = 125.00 円

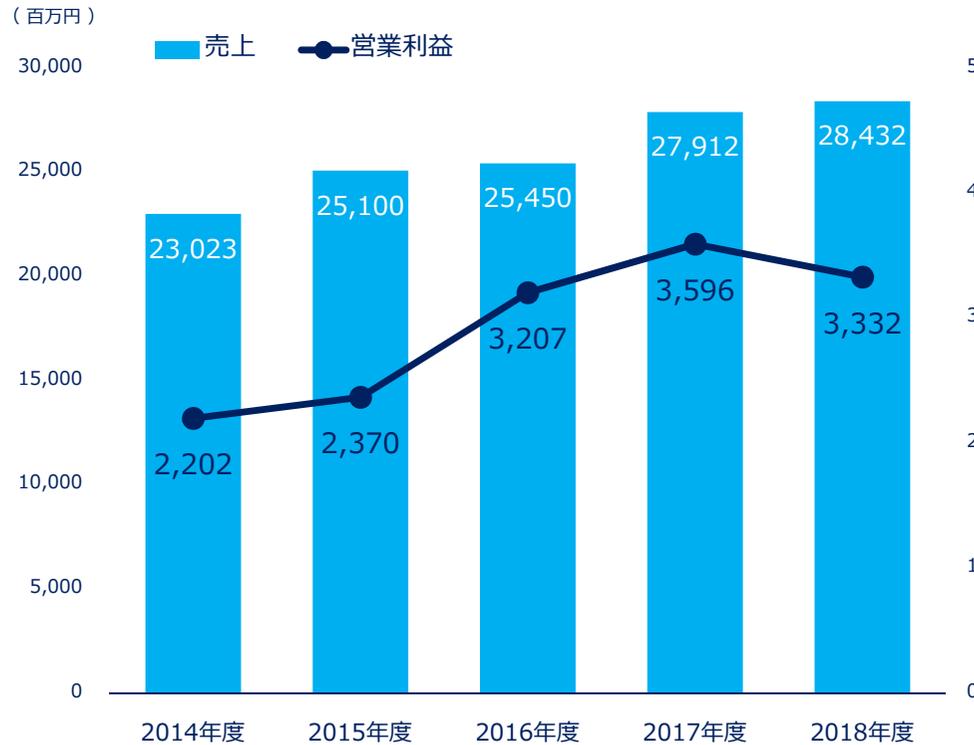
1ユーロ = 128.41 円 (※1比1.0% 円高)

～ 営業利益増減 ～



～ 過去5年の業績推移 ～

売上・営業利益とも順調に推移

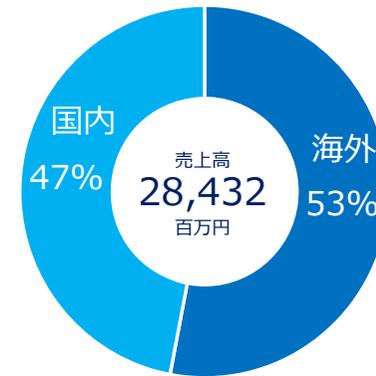


1米ドル	109.93 円	120.14 円	108.38 円	110.85 円	110.91 円
------	----------	----------	----------	----------	----------

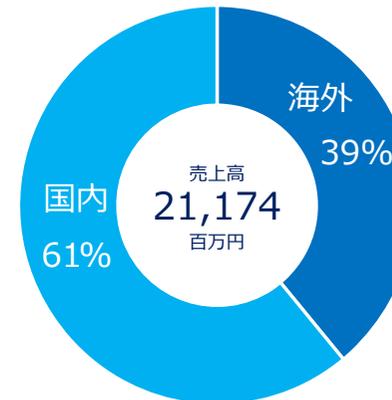
1ユーロ	138.77 円	132.58 円	118.79 円	129.70 円	128.41 円
------	----------	----------	----------	----------	----------

2018年度

【売上高比率】



【食品加工機械製造販売事業 売上高比率】

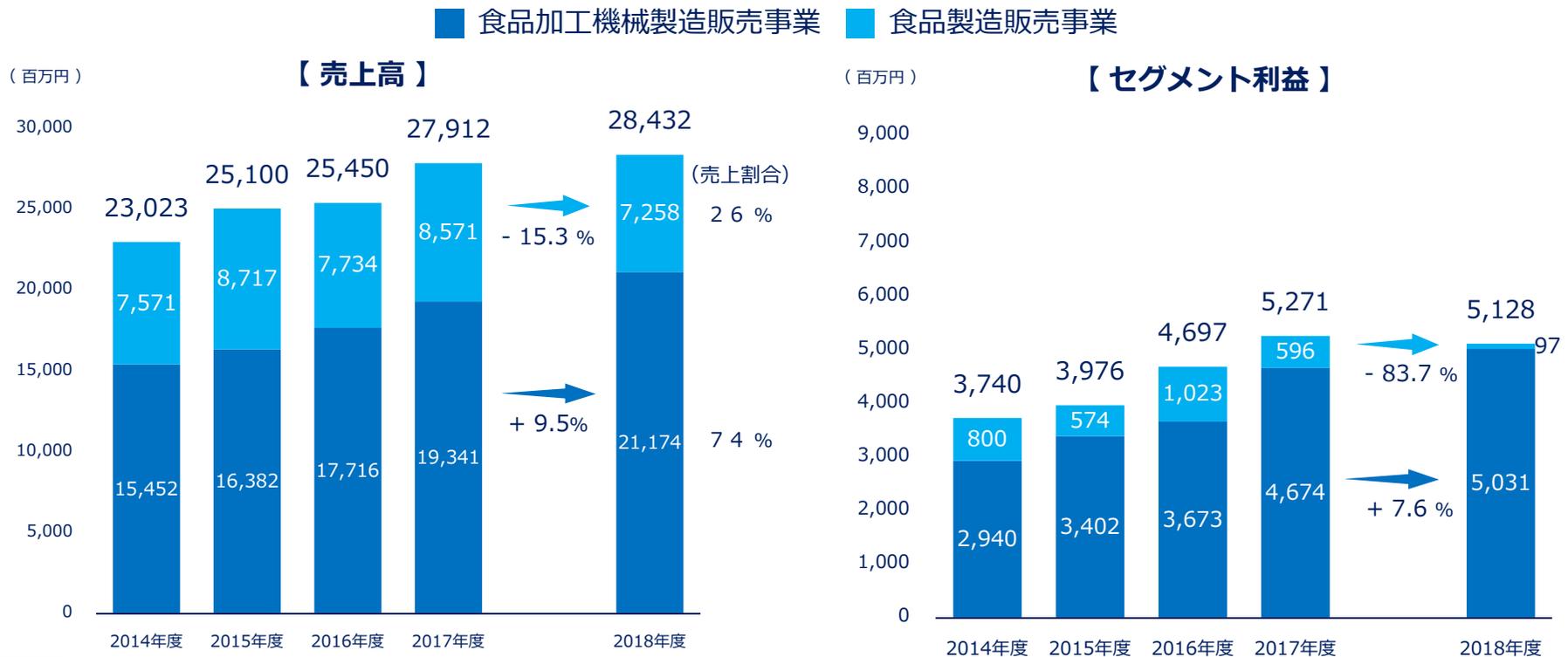


～ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 ～

〔 事業別売上高・セグメント利益 〕

【 食品加工機械製造販売事業 】 売上高・セグメント利益ともに前年より増加

【 食品製造販売事業 】 売上高・セグメント利益ともに前年より減少



～ 食品加工機械製造販売事業 ～

〔 地域別売上高・セグメント利益 〕

【日本】
 【北米・南米】
 【ヨーロッパ】

売上 増加

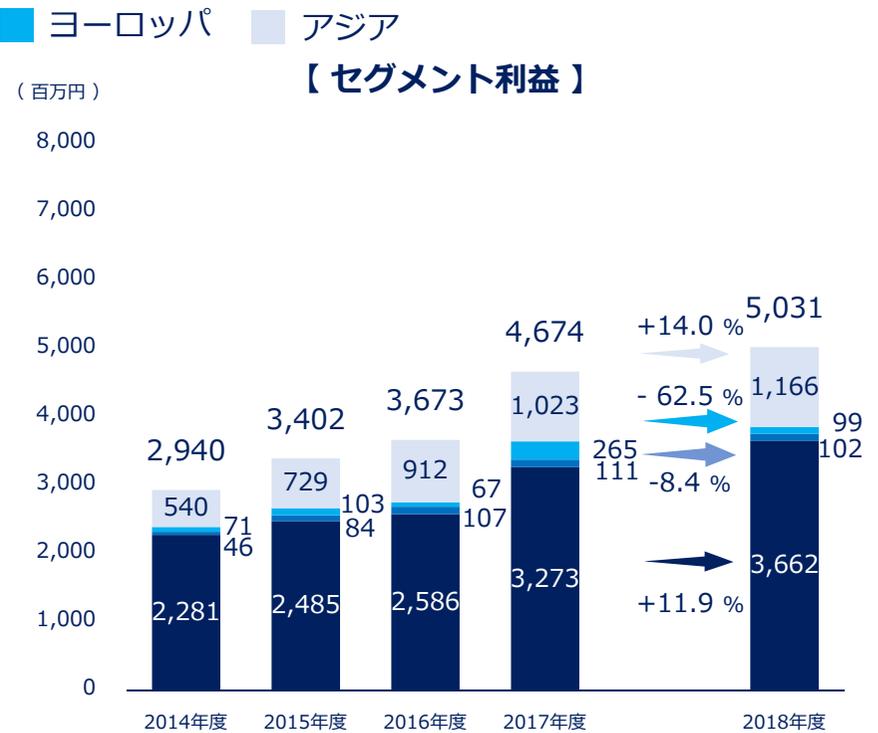
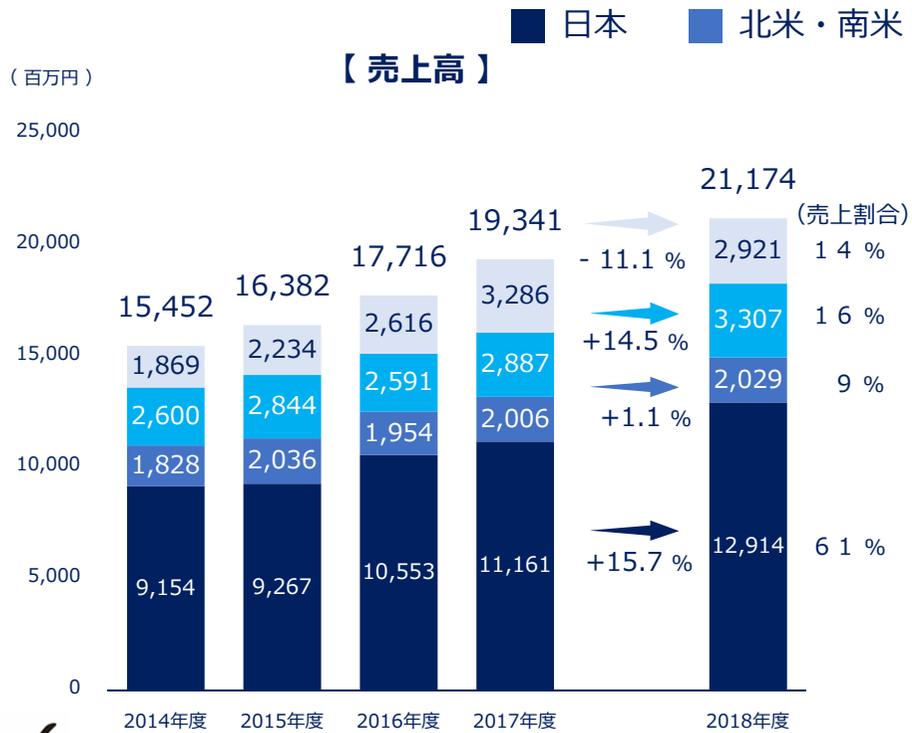
【アジア】
 売上 減少

【日本】
 【アジア】

セグメント利益 増加

【北米・南米】
 【ヨーロッパ】

セグメント利益 減少



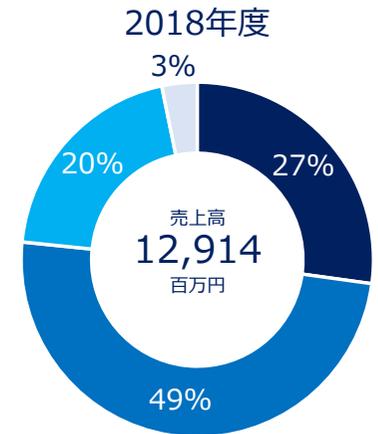
～ 食品加工機械製造販売事業 ～

〔売上高 内訳 日本〕

- 食品成形機
 - 製パンライン等
 - 修理その他
 - レベントオープン
- (包あん機等) (自動化ライン等)

(注)

「食品成形機」「製パンライン等」の割合には、自社製品の売上高だけでなく、仕入商品の売上高も含まれております。



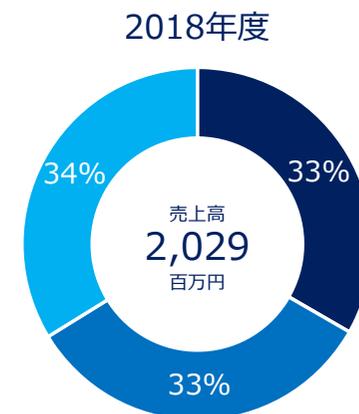
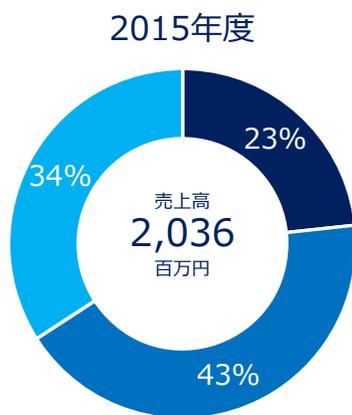
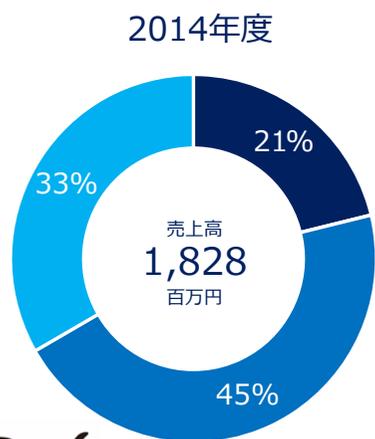
ポイント

省人化・省力化、品質アップ、バラエティー化、生産能力増強など
 に対応した大型ライン・小型のパン生地分割機等の販売が好調

～ 食品加工機械製造販売事業 ～

〔売上高 内訳 北米・南米〕

食品成形機
 製パンライン等
 修理その他
 (包あん機等) (自動化ライン等)



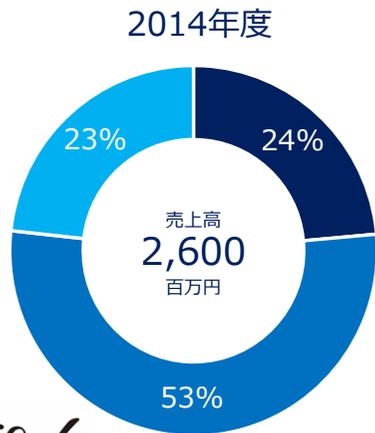
ポイント

エスニック・メキシカン・アジアンフードの増加により、包あん機の需要が増加

～ 食品加工機械製造販売事業 ～

〔売上高 内訳 ヨーロッパ〕

■ 食品成形機
■ 製パンライン等
■ 修理その他
 (包あん機等) (自動化ライン等)



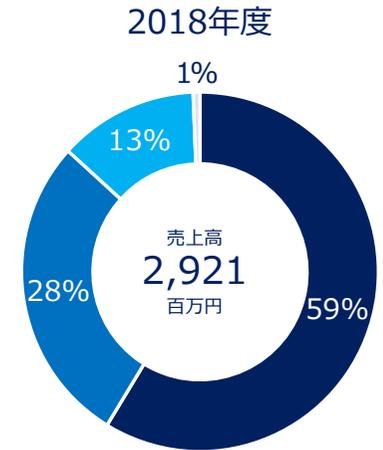
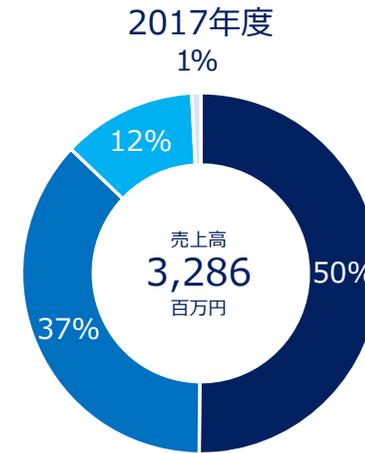
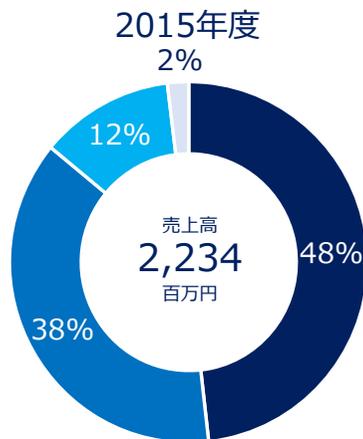
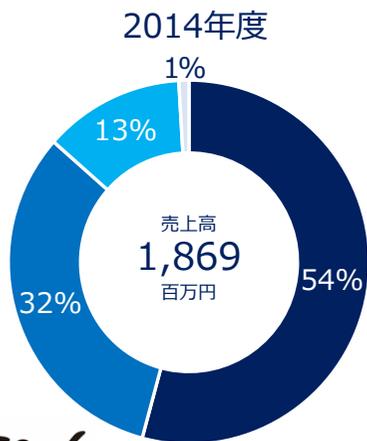
ポイント

ビスケット、クッキーおよびバゲット生産用として大型ラインの販売が好調

～ 食品加工機械製造販売事業 ～

〔売上高 内訳 アジア〕

- 食品成形機 (包あん機等)
- 製パンライン等 (自動化ライン等)
- 修理その他
- 仕入商品



ポイント

中華まん、月餅、中華菓子、ミニパンなどを生産する包あん機の販売が好調

～ 食品製造販売事業 ～

〔 地域別売上高・セグメント利益 〕

【北米・南米】

大手顧客への販売減により減少

【日本】

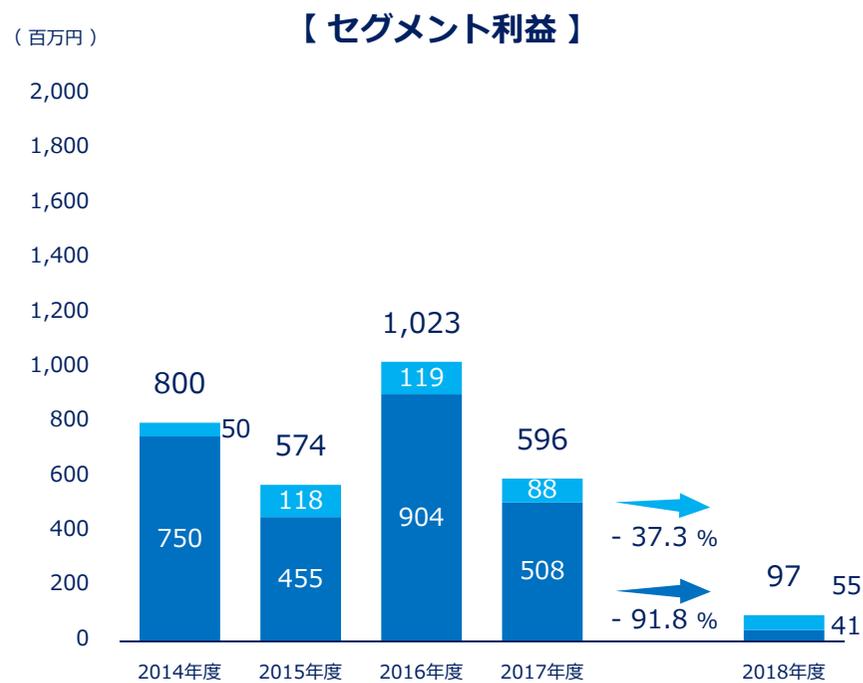
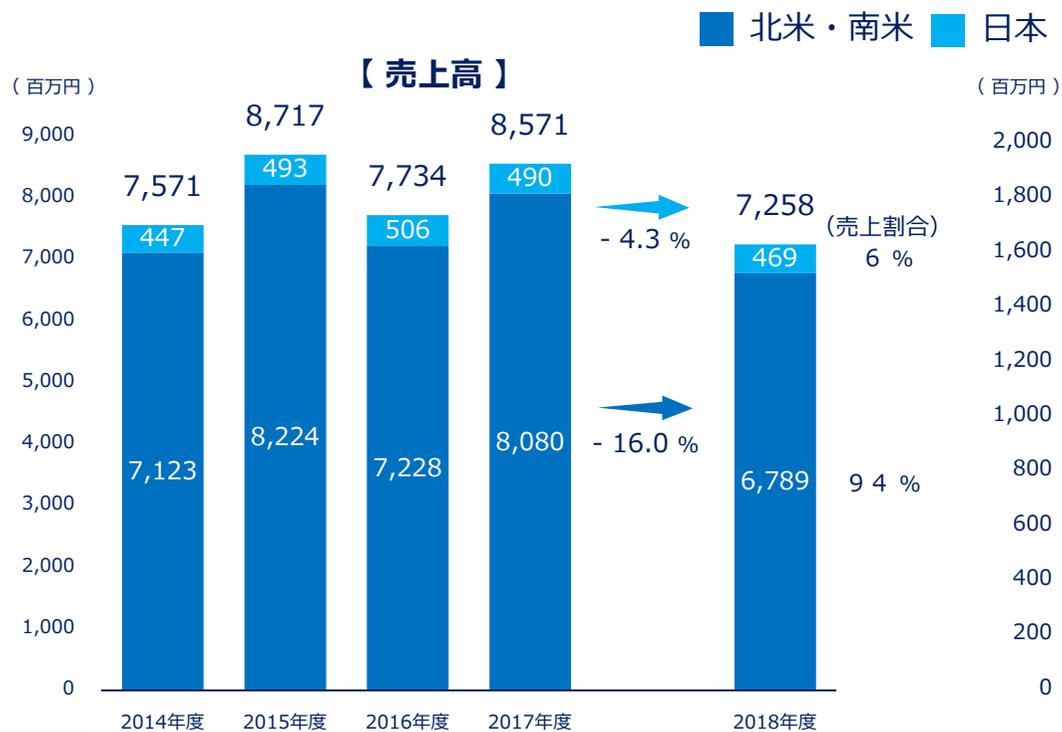
大手ユーザー向けのパン種の販売減少により減少

【北米・南米】

貸倒損失555百万円の計上、原価率は改善したが販管費の増加より利益が減少

【日本】

原価率の上昇、販管費の増加により利益が減少



～ 連結貸借対照表サマリー ～

(百万円)		2017年度		2018年度			
		金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
	流動資産	16,346	52.7 %	16,036	49.8 %	▲1.9 %	・ 仕掛品の減少 等
	固定資産	14,645	47.3 %	16,143	50.2 %	10.2 %	・ オレンジベーカーリーにおける建物および機械装置の取得により増加 等
	資産合計	30,991	100 %	32,179	100 %	3.8 %	—
	流動負債	7,004	22.6 %	6,803	21.1 %	▲2.9 %	・ 支払手形及び買掛金の減少 等
	固定負債	1,708	5.5 %	1,509	4.7 %	▲11.7 %	・ 長期借入金の減少 等
	負債合計	8,712	28.1 %	8,312	25.8 %	▲4.6 %	—
	純資産合計	22,279	71.9 %	23,867	74.2 %	7.1 %	・ 利益剰余金の増加 等
	負債・純資産合計	30,991	100 %	32,179	100 %	3.8 %	—

～ 連結キャッシュ・フロー・サマリー ～

(百万円)	2017年度	2018年度	主な増減要因
現金及び現金同等物の 期首残高	4,359	6,386	—
営業活動によるCF	4,004	3,946	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前当期純利益 3,491 ・減価償却費 923 ・売上債権の減少 1,567 ・たな卸資産の減少 131
投資活動によるCF	▲1,057	▲1,594	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 ▲1,156 ・無形固定資産の取得 ▲433
財務活動によるCF	▲918	▲1,250	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入の返済 ▲568 ・配当金の支払額 ▲803
現金及び現金同等物の 増減額	2,027	1,080	—
現金及び現金同等物の 期末残高	6,386	7,466	—

2 2019年度 連結業績予想

～ 通期 連結業績予想 ～

(百万円)	実績 ※1 2018年度	予想 ※2 2019年度	前期との増減 (%)
売上高	28,432	29,230	2.8 %
営業利益	3,332	3,750	12.5 %
経常利益	3,506	3,820	8.9 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,472	2,670	8.0 %

※1 期中平均為替レート : 1米ドル = 110.91 円 1ユーロ = 128.41 円
 ※2 想定為替レート : 1米ドル = 105 円 1ユーロ = 120 円

～ 事業別業績予想 売上高 (1) ～

〔食品加工機械製造販売事業〕

日本

- ・ 2018年度に比べ大型案件が少なくなることが予想され、減収となる見通し。
- ・ 人手不足による省人・省力化の状況は変わらない状況。
- ・ 菓子パン成型ラインなどで、新たなマーケット拡大を図る。

北米・南米

- ・ 増収となる見通し。
- ・ 包あん機やV4ツインデバイダーのようなユニット機が伸びている。
- ・ 東部地区の販売強化。西部地区では、民族食をターゲットに新規市場への開拓。

想定為替レート : 1米ドル = 105円 1ユーロ = 120円

～ 事業別業績予想 売上高 (2) ～

〔食品加工機械製造販売事業〕

ヨーロッパ

- ・増収となる見通し。
- ・政治的な不透明感はあるが、欧州での人件費高騰・労働力確保の面から、食品生産の自動化の要求は高い。
- ・自動化ラインの販売増加を図る。

アジア

- ・包あん機・自動化ラインの売上増加により大幅な増収となる見通し。
- ・「中国市場への販売力増強」「ベーカリー市場におけるレオンブランドの認知度向上」「日系企業への提案力強化」を図り、2018年度に低迷していた、自動化ラインの拡販を行う。

想定為替レート : 1米ドル = 105円 1ユーロ = 120円

～ 事業別業績予想 売上高 (3) ～

〔食品製造販売事業〕

北米・南米 (オレンジベーカリー)

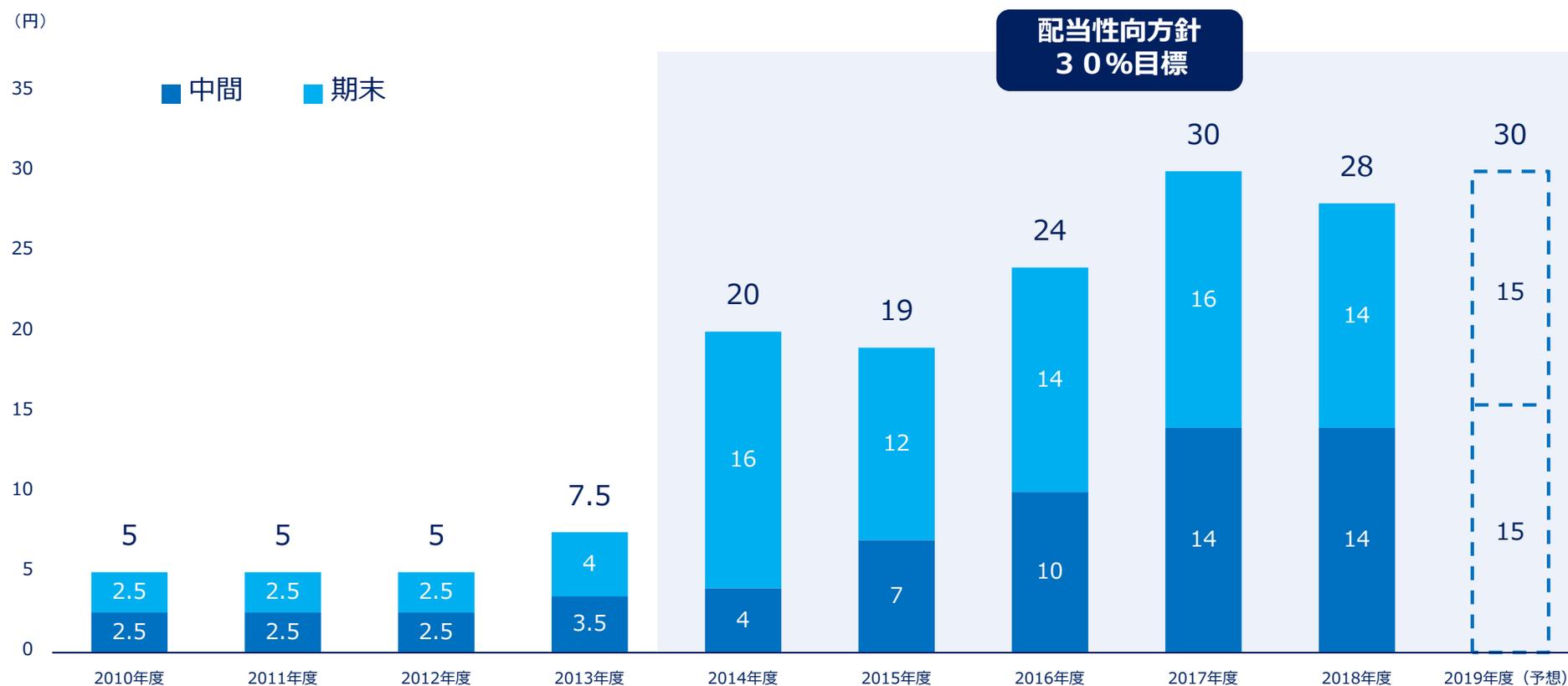
- ・増収となる見通し。
- ・第三工場のライン増設により、東部地区の営業を強化を図ると共に、新製品投入・現行製品の品質UPなどを図る。

日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- ・増収となる見通し。
- ・中国のベーカリー市場に今期から販売を開始。

～ 配当方針 ～

当社は、2014年度に連結配当性向の目標を**30%**とし、業績等を総合的に勘案し
継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

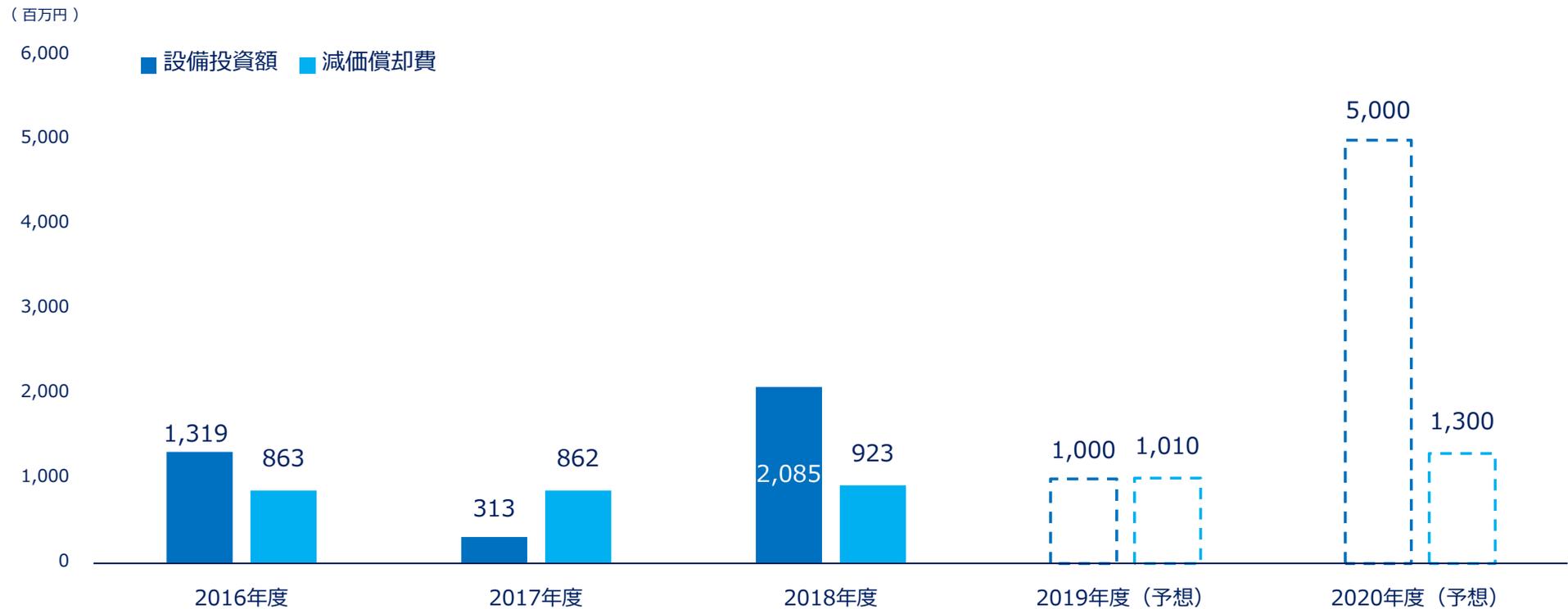


～ 設備投資額・減価償却費 ～

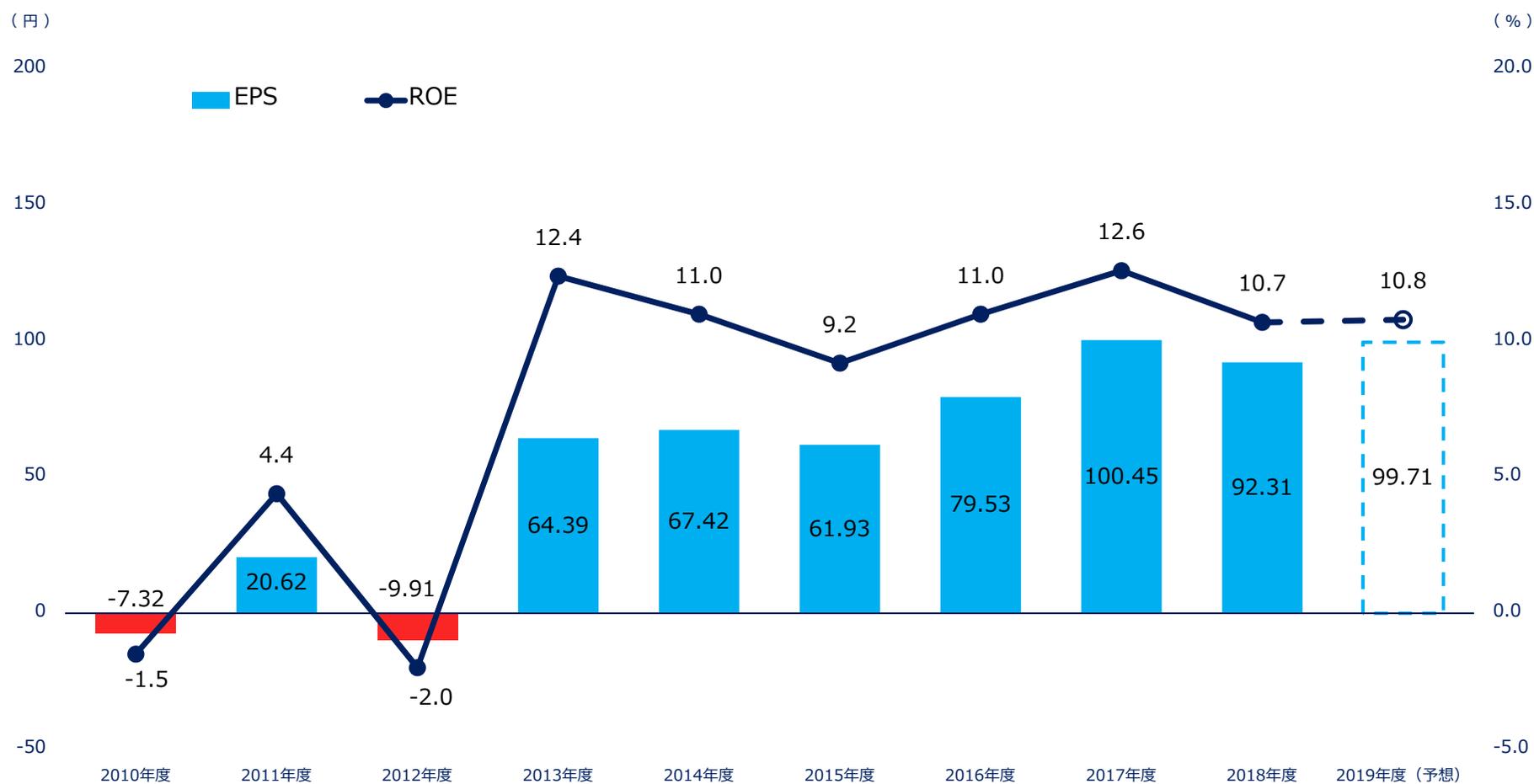
【設備投資額】

2018年度 オレンジベーカーリーにおける「第3工場の拡張工事」・「新ライン増設」等により増加

2019年度 製造用機械の新設・導入、サーバ更新 等



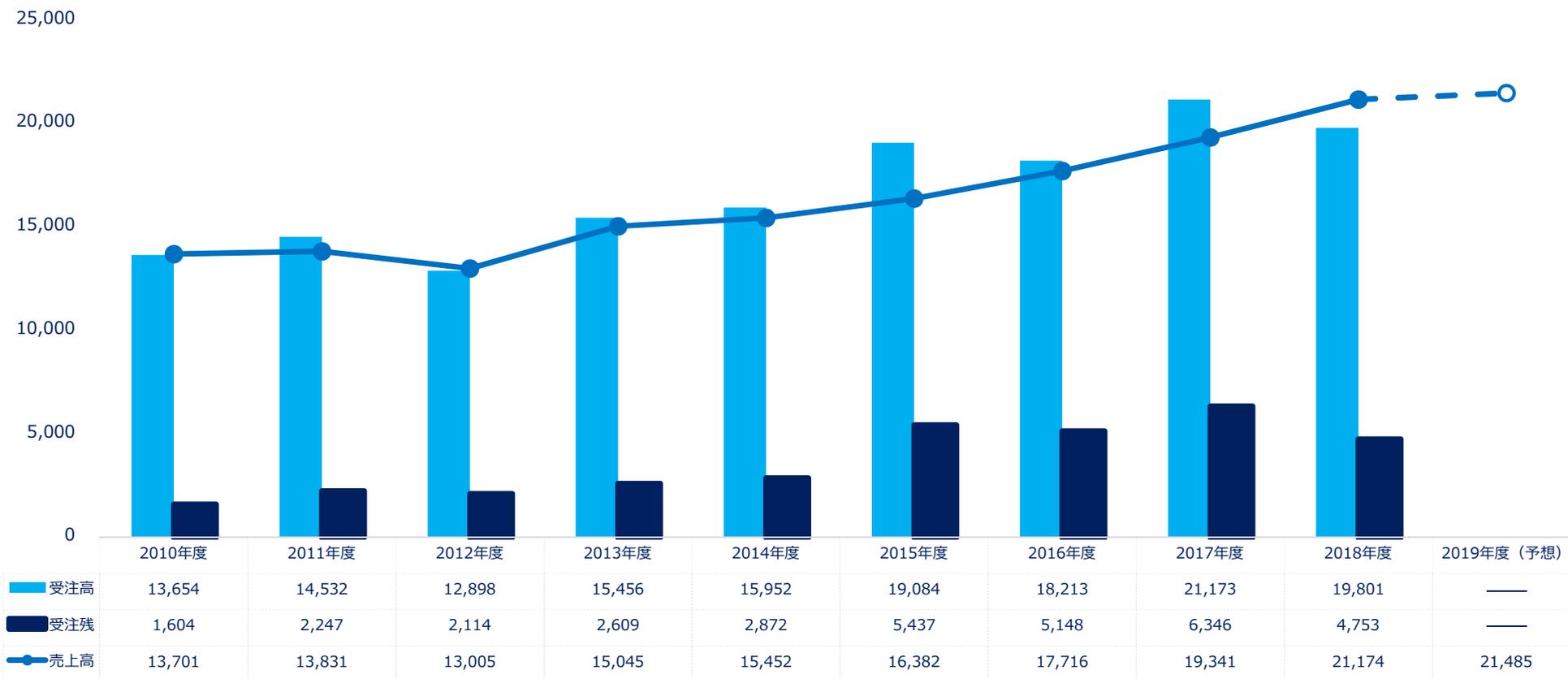
～ ROE・EPSの推移 ～



～ ご参考 (売上高・受注高・受注残の推移) ～

〔食品加工機械製造販売事業〕

(百万円)



3

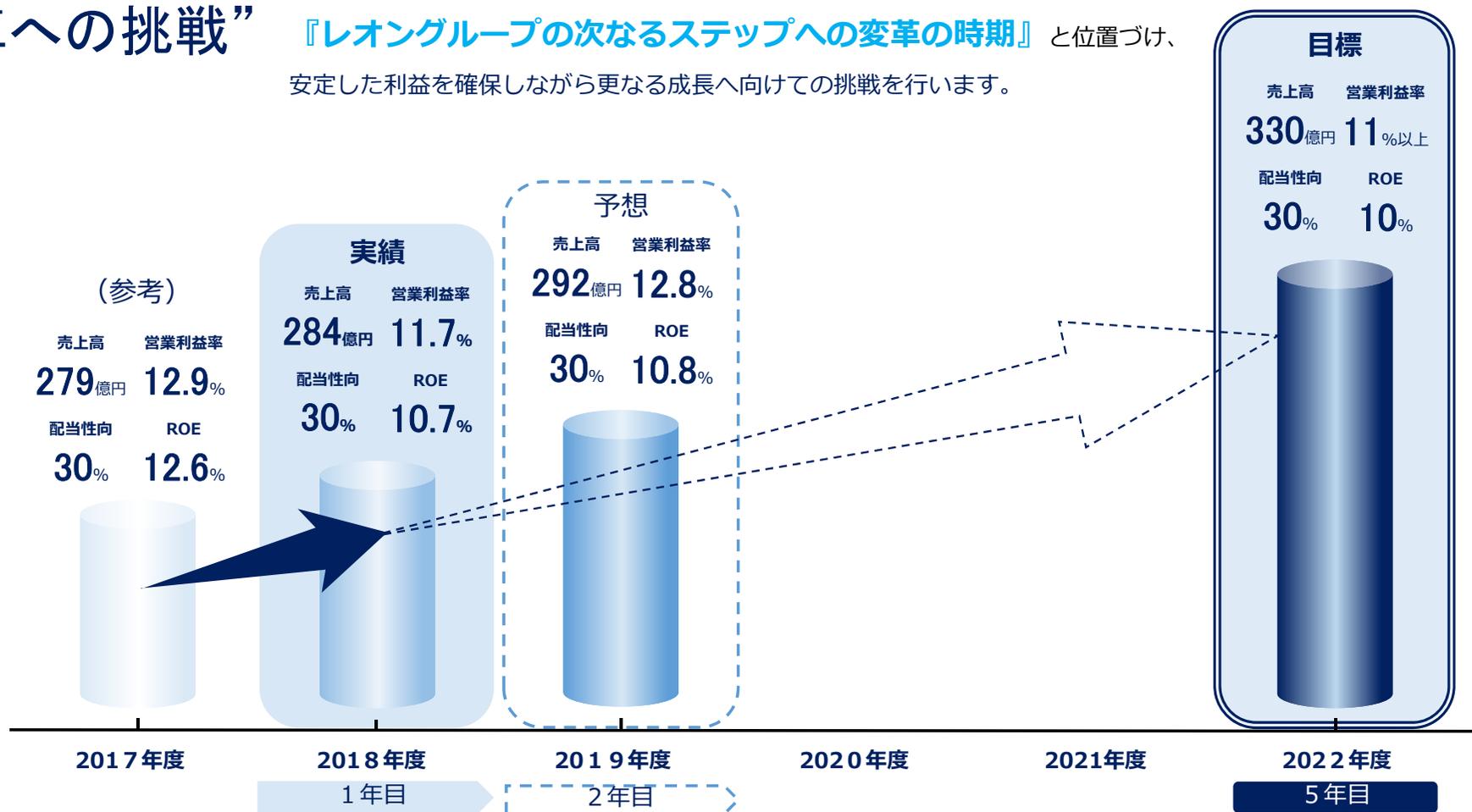
中期経営計画 1年目進捗 (2018年度～2022年度)

～ 中期経営計画 2018年度 1年目進捗 ～

“変革への挑戦”

中期経営計画期間は、

『レオングループの次なるステップへの変革の時期』と位置づけ、
安定した利益を確保しながら更なる成長へ向けての挑戦を行います。



～ 中期経営計画 4つの重点施策 ～

1 生産体制の強化 - 収益基盤・技術力 -

- 受注～生産の体制を見直し、生産性を向上させる。
 - 品質管理の徹底、購買力の強化 -
- 開発設計体制を強化する。
 - モノづくり力の強化、コスト競争力の強化 -

4つの重点施策



2 販売体制の強化 - グローバル活動体制の整備 -

- エンジニアリング事業の拡大をする。
 - ソリューションビジネス強化 -
- 海外販路拡大をする。
 - 代理店網の整備、営業体制の強化 -

4 業務環境整備

- 基幹システム刷新等による業務効率化及び生産性向上を推進する。
- 間接部門の現場力を強化する。- 従業員満足度の向上 -

3 人材育成

- グローバル人材を育成する。
- 技術力・提案力を強化する。
- 次世代経営者を育成する。
 - 人材育成プログラムの確立 -

～ 中期経営計画の進捗状況 2018年度 (1) ～

1. 生産体制の強化 - 収益基盤・技術力 -

2018年度

実施内容	行動の狙い（理由）
部品加工機械の設備の増強、品質管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> 納期、コスト、品質の管理力を高める
開発力強化のためのプロジェクトチーム立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ①モジュール設計を基軸に設計方法の改革 ②納期短縮 ③コスト削減を実施
購買調達力強化のため協力会社を増加、品質管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 納期、コスト、品質の管理力を高める
オレンジベーカーリーの第3工場を拡張し、新たにMMラインを増設	<ul style="list-style-type: none"> 北米 東部地区の新規顧客拡大

2019年度

実施予定内容	行動の狙い（理由）
新設の加工機械生産効率向上	<ul style="list-style-type: none"> 納期、コスト、品質の管理力を高める
組立作業管理システムの見直し	同上
モジュール設計による機種開発を進め、コスト競争力を強化	<ul style="list-style-type: none"> 部品、機械の標準化推進および納期短縮、コストダウン
オレンジベーカーリーにおいて、パイシート生産の本稼働に入る	<ul style="list-style-type: none"> 北米 東部地区における新規顧客の発掘および販路拡大

～ 中期経営計画の進捗状況 2018年度 (2) ～

2. 販売体制の強化 - グローバル活動体制の整備 -

2018年度

実施内容	行動の狙い(理由)
代理店強化および、北米のレオンUSA東部事務所を増床移転	<ul style="list-style-type: none"> 海外進出をさらに加速させる (輸出実績も124→125の国と地域に増加)
エンジニアリング事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの把握とソリューション提案営業の展開

2019年度

実施予定内容	行動の狙い(理由)
海外も含めエンジニアリング事業をさらに強化	<ul style="list-style-type: none"> システム販売を通じて、ソリューションビジネスを拡大
社内組織の連携を密にし、ブランド力強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 自動化生産の提案力強化 アフターフォロー体制の強化および、アフターマーケットへの取組み(オプション販売・買替促進)
海外担当の増員及び海外代理店のメンテナンス教育実施	<ul style="list-style-type: none"> アメリカおよびアジアに人員を増員し販売力を強化 アジア代理店のメンテナンス社員の研修を実施し、日本式の保守管理による販売力の強化

～ 中期経営計画の進捗状況 2018年度 (3) ～

3. 人材育成

2018年度

実施内容	行動の狙い(理由)
執行役員を主体に経営人材育成プログラムを実行	<ul style="list-style-type: none"> 次世代経営者育成のため、全社最適の視点から方向性を考え課題を克服する思考力を身に付ける
各部署内の方針管理(活動計画)の進捗を他部署にも見えるようにオープン化	<ul style="list-style-type: none"> 会社(部署)方針・目標を共有し、社員一人ひとりの役割と目標を明確化するマネジメントサイクルの構築および、目的意識の高揚と生産性向上を図る
女性初の駐在員の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍促進に向けたロールモデル人材の育成

2019年度

実施予定内容	行動の狙い(理由)
経営企画室を設け、2018年度の活動の継続状況(進捗状況)を把握・支援する	<ul style="list-style-type: none"> 方針管理の徹底および継続活動による、マネジメントサイクルの定着化推進 全社最適な全社横断的プロジェクト実施による業務効率アップ 全社員参加型の経営プロジェクト実行により、将来の経営者を含む人材育成
「若い世代の教育プログラムの構築および実行」を図る(社員のスキルマップの作成および見える化などを含む)	<ul style="list-style-type: none"> 次世代への知識、技術継承 適正人員の配置、戦略人事の実施

～ 中期経営計画の進捗状況 2018年度 (4) ～

4. 業務環境整備

2018年度

実施内容	行動の狙い（理由）
<p>基幹システムの刷新</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの一元管理および情報共有による、業務の効率化・迅速化を図り顧客サービスレベルを向上 経営基盤の強化、災害リスク回避（オンプレミス⇒クラウド化） ガバナンス強化 業務効率化による働き方改革への対応
<p>新社屋（レオン・ソリューションセンター）の建設</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営基盤の強化（災害対策、リスク回避） 提案型企業として、お客様の課題解決に対応するため、「来客テスト」「食品開発」「講習会」などが実施できる研究施設の充実を図り、一層の顧客満足度向上につなげる ペーパーレス化をはじめとする業務効率の向上 社内コミュニケーションの向上による効率化、生産性向上

～ 中期経営計画の進捗状況 2018年度 (5) ～

4. 業務環境整備

2019年度

実施予定内容	行動の狙い(理由)
2020年4月の稼働開始を目指して基幹システムの開発を進める	• SAPによる経営状況の瞬時把握と全社統一の戦略的なデータ活用により、迅速な経営判断を可能とする
2019年9月に新社屋の建設着工	前ページと同様



2020年9月
完成予定



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

「存在理由のある企業たらん」は、レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。

存在理由

- ◆ 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- ◆ 世界の食文化に貢献する



《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

添付資料

～ レオングループの概要 ～

レオン自動機株式会社

〈 RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD. 〉



本 社 栃木県宇都宮市野沢町 2 - 3

創 立 1963年 3月

上 場 東京証券取引所一部上場 (1989年 9月)

従 業 員 704名

グループ会社 1065名

国内シェア

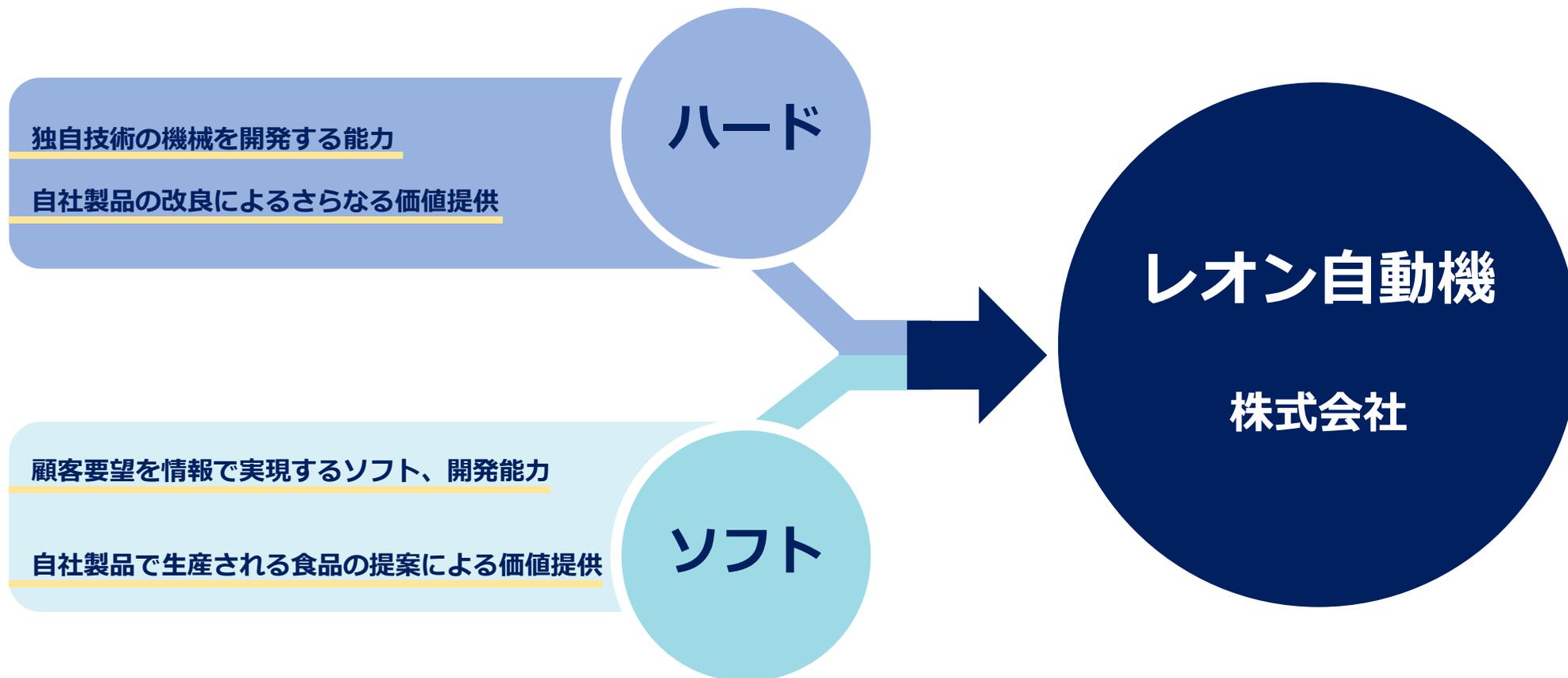
包あん機 90 %
自動化シートライン 90 %以上

現在総保有特許数

国内特許取得総数 156 件
海外特許取得総数 426 件
(2019年3月31日 現在)

～ 当社の強み ～

ハード・ソフトを交えた販売活動が当社の強み



～ 食品加工機械製造販売事業 ～

『食品成形機』

包あん機やその周辺機で構成された単体機



CN580



セットバンナー

『製パンライン等』

製パンラインを主とした自動化ライン等



VM250



MMライン

～ 食品加工機械製造販売事業 国内拠点 ～

機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

札幌出張所



仙台出張所



東京営業所



本 社



上河内工場



名古屋営業所



大阪営業所



岡山営業所



福岡営業所



～ 食品加工機械製造販売事業 海外拠点 ～

海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）
世界 125 の国と地域に機械を販売

レオンヨーロッパ
（デュッセルドルフ）



ヨーロッパ市場

日本

上海駐在員事務所
台湾支店

アジア市場



レオンU.S.A. 東部事務所
（ニュージャージー州）

北米・南米市場



レオンU. S. A.
（カリフォルニア州）

～ 食品製造販売事業 国内・海外拠点 ～

オレンジベーカリー

カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



ノースカロライナ州

第3工場



- レオン機の実験工場として
設立しクロワッサンなど付加
価値の高いパンを製造

- 主に成形冷凍のパンを全米の
ベーカリー、スーパー、
レストラン等に販売

(有)ホシノ天然酵母パン種

神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ホシノ天然酵母パン種を
製造販売